

えんめいじ ぶっこう 円明寺の仏光 — 馬之 —

てんしょう
天正二年（一五七四年）のことです。織田信長が何万人もの兵を引きつけて、きたばたけ
北畠軍を攻めてきました。

激しい戦いは何年も続き、大淀城や中村城は無惨にも焼かれ、天正十一年には、円明寺も跡形なく焼かれてしまいました。

そうしてお寺の再建もできず、何年かたち、けいちょう
慶長十一年（一六〇六年）のことです。焼けた円明寺の井戸から、明るい光が差し込んだのです。

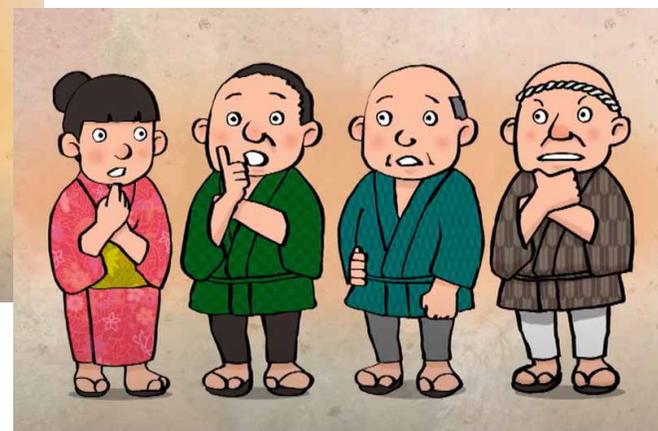
「あの光は何やろ？」

村人たちは不思議に思いました。

そのうちに、

「あの光は円明寺の本尊さんのおひかり
御光や！」

という、うわさがあちこちで聞こえてきました。





そこで、村人たちは、さっそく井戸を掘ったのでした。すると、村人たちの、うわさどおり、石造大日如来せきぞうだいにちによらいが出てきました。

村人たちは驚きました。そしてこのままではいけないと、皆の力でお堂を建て、本尊ほんぞんをまつまつりました。

その後、お寺の運はだんだんと開け、円明寺はしだいに栄えていったということです。



円明寺

キーワード：みんな、馬之上、円明寺

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんな』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしようしています。